

保健学研究科

群馬県民を対象とした交流・体験型健康啓発イベントの開催

担当学部等 保健学研究科

担当学科等 保健学研究・教育センター地域保健推進室

担当者 地域保健推進室長・佐藤 由美 教授 他

◎事業概要

本事業は平成23年度の全学地域貢献シンポジウム、及び平成24・25年度の地域貢献事業採択事業として実施した『華麗に加齢のサイエンス』が県民の高評価を得て継続開催が望まれていることを踏まえて企画した。

保健学研究科の研究や地域貢献活動を県や市町村行政関係者にアピールするとともに、県民に健康づくりの教育機会を提供することとし、保健学研究科教員による講演、自治体が展開している先駆的な健康づくり活動の紹介、及び保健学研究科教員、学部・大学院生、大学院修了生による測定・体験ブースの実施などを行った。

本事業は群馬県(介護高齢課)と群馬県地域リハビリテーション支援センターとの共催とし、企画・実施プロセスを通じて、群馬県および市町村の行政関係者などと地域保健に関わるニーズを共有し、今後の共同研究・活動に向けたネットワークを構築した。また、地域保健医療実践者である大学院修了生のネットワークを活かして実施した。

◎実施事業等

平成27年3月5日(木)に群馬会館にて『華麗に加齢のサイエンス2015』を実施した。参加者は257名(教職員・学生含む)であった。

当日はフレッシュ講演として保健学研究科の松井弘樹助教による「年はとつても血管年齢は若々しく！」と亀ヶ谷忠彦助教による「運動で脳をいきいき活性化！今日から始める認知機能トレーニング」という2つの講演が行われた。

また群馬県からの紹介により、住民主体の健康づくり・介護予防に先駆的に取り組んでいる前橋市高崎市、玉村町について、介護予防サポーター等住民組織の代表者から活動内容を報告いただいた。

さらに保健学研究科教員12名と学部・大学院生、修了生により、血管年齢、体組成、バランス、ストレスの測定や、脳活性化トレーニング、昔の遊びを活用した介護予防、排尿相談などのブースを開設し、延べ137名が利用した。

当日の様子は、ぐんま経済新聞(3月12日)に掲載された。

◎期待される成果

1. 県民に対するアピール

生活習慣病予防や介護予防に関する知識の普及と行動化の推進は群馬県の主要な課題である。今回のイベントでは当日来場者に対して、生活習慣病や要介護状態の予防に向けた知識技術を紹介することができた。また、事業実施にあたりFM群馬による事前放送や事業内容の新聞掲載などによって保健学研究科がこの分野の人材を有していることをアピールできた。

2. 自治体とのネットワーク

共催者としての県だけでなく、活動報告を依頼した前橋市、高崎市、玉村町の行政職員及び住民組織と“顔のみえる関係”を構築できた。また、群馬県地域リハビリテーション支援センターとの連携を通じて地域保健の支援団体との接点を得ることができた。

3. 院生・修了生とのネットワーク

保健学研究科でネットワーク構築を図っている「大学院修了生ネットワーク」の情報網により院生・修了生に本事業への協力を得ることができ、院生・修了生の相互交流や地域貢献の場としても本事業を活用することができた。